

平成 30 年度研究プロジェクト計画概要

| | | |
|---|-----------------------------------|-----------|
| 研究種別 | ■自主研究 3 | 公益目的事業 16 |
| 主査名 | 林 克彦 流通経済大学流通情報学部教授 | |
| 研究テーマ | 消費者向け小口貨物輸送における「ラストマイル」の多様化に関する研究 | |
| <p>ネット通販の急成長が続き、宅配便の取扱量は年間 40 億個を超えるほどまで増加した。主要宅配便事業者は、宅配便運賃を値上げし取扱量の抑制を図る一方、賃上げや働き方改革を通じて労働力確保に努めている。さらに、宅配便輸送ネットワークにおいても、大型ターミナルの整備、幹線輸送車両の大型化等の幹線輸送ネットワークの再構築が進められており、営業所から消費者への最終的な配達（ラストマイル）ネットワークでも、チーム集配方式等の様々な試みが行われている。一方、これまでネット通販事業者は、商品配送を宅配便事業者に依存してきたが、独自に配送専門事業者を組織化してラストマイルに主体的に取り組む動きが活発化している。</p> <p>ラストマイルでは、消費者が在宅時に荷物を受け取ってもらう方法が一般的である。しかし、国土交通省調査によれば、不在のため再配達する場合は 2 割程度あり、生産性の低下だけでなく、排出ガス増加による環境問題の一因となっている。このため、新たなラストマイルとして、コンビニ等での受け渡し、駅や商業施設への受取ロッカー設置、家庭やマンションへの宅配ロッカー設置等が進められている。また事業者の会員サービス等を通じて、消費者と受け渡し時間や場所等をきめ細かくやり取りすることによって一度で受け取れるような仕組みも導入されている。</p> <p>さらにネット通販が浸透する中国や欧米では、オープン型受取ロッカーの設置、独立型の荷物受取所の設置、マッチングシステムを利用した自家用車やオートバイ等による配達等、多様なラストマイルの取組が行われている。</p> <p>本研究プロジェクトでは、宅配便事業者やネット通販事業者による消費者向け小口貨物輸送における輸配送ネットワーク再構築についてラストマイルでの取り組みを中心に、諸外国の事例を含めてヒアリング・実地調査等により収集、分類するとともに、研究会において生産性、効率性、環境への影響等の視点から議論する。</p> | | |